

令和3年度 第1回

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

議事要旨

宇治市

## 宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事要旨

<開催年月日> 令和3年8月10日(火曜日)午後1時30分から午後2時45分まで

<開催場所> 宇治市本庁舎8階大会議室

### <出席者>

長谷川 理生也	宇治商工会議所 専務理事
真山 達志	同志社大学 教授
稲垣 勝彦	京都府山城広域振興局 局長
小林 幸大	株式会社京都銀行 宇治支店長
西村 徹也	連合京都南山城地域協議会 事務局長
小長谷 淳子	公認会計士
高田 悦子	特定非営利活動法人働きたいおんなたちのネットワーク 理事
寺川 徹	市民公募委員
日野 真代	市民公募委員

計9名

### <事務局等>

川口 龍雄	宇治市 副市長
貝 康規	政策経営部 部長
遠坂 尚	政策経営部 副部長
大北 浩之	政策経営部経営戦略課 課長
佐々木 卓也	政策経営部経営戦略課 副課長 兼 未来プロジェクト推進室 室長
大西 太基	政策経営部経営戦略課 主任

計6名

<会議次第>

1. 開会
2. はじめに
3. 議事
  - ・ 第2期宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価報告書(案)(令和2年度事業)について
4. 閉会

<会議内容>

1. 開会

《委員長より開会の挨拶》

2. はじめに

《事務局より挨拶》

《新委員の紹介》

《欠席委員の報告》

《事務局の紹介》

3. 議事

委員長) それでは、私の方から会議次第により進行させていただきます。会議の開会にあたりまして、川口副市長よりご挨拶の申し出がございましたので、よろしく願いいたします。

《川口副市長から挨拶》

委員長) ありがとうございます。それでは議題に基づきまして議事の、第2期宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略・事業評価報告書(案)について事務局よりご説明お願いいたします。

《資料に基づき事務局から説明》

委員長) ありがとうございます。それではこれより質疑に入りたいと思います。ただ今ご説明いただきました内容につきまして、ご意見ご質問ございましたらお願いいたします。

委員長) 5ページの人口動態のグラフがございしますが、社会動態は概ね改善の傾向にあるということで、減少幅が縮小しているという意味で改善の傾向ということですが、あまり

新型コロナウイルス感染症の影響がなかったであろう令和元年の社会動態の減少幅が増え  
ており、そしてまた令和2年には改善しています。この増減の変化を、市としてはどうい  
う分析をされているか、もしあればお教えいただけますでしょうか。

事務局) 社会動態は減少しているものの、元年と比較しまして令和2年の減少幅は改善し  
ており、やはり新型コロナウイルス感染症の影響が一定あったように感じております。と  
言いますのも、転出される世代の方々が都市部などに就職などを期に転出されるとの分析  
をこれまでしておりますことから、都市部での新型コロナウイルス感染症の流行等を勘案  
しますと、そういった転出を控えるという傾向も一定あるのではないかと分析しておりま  
す。

委員長) 新型コロナウイルス感染症で、特に東京が顕著ですが、もっとも日本人の流出は  
さほどないという分析もありますけれども、そういうときには宇治市などは、今度は流入  
を増やすチャンスという語弊がありますけれども、そういうタイミングになるのかもし  
れません。

委員) 今の人口動向にもありましたけれども、やはり就業される時期に出て行かれる人数  
が多いのかなと思ひまして、やはり今ある事業所をいかに元気にして働く人数を増やして  
いくことが大事なのかなと思ひました。勉強不足なのかもしれないのですが、最後の35  
ページ渋谷との連携において、連携をすることによって何か宇治市の事業拡大や働く人口  
が増えることにつながる具体的な何かあれば教えていただきたいです。

事務局) 今ご質問がございました34ページに京都山城地域と渋谷連携という関係人口創  
出プロジェクトについて、若干ご説明を加えましてお答えさせていただきます。当初渋谷  
区との連携で、対面で現地においてお茶の文化や、渋谷区と宇治の交流を深めるというの  
が意図であったものの、新型コロナウイルス感染症の影響で対面での実施を避けておりま  
して、ここに書いておりますようにSNSを活用した取組がございます。具体的にはデジ  
タルお茶会という映像をYouTubeに配信したり、プレゼント企画をSNS上で行っ  
たり、また渋谷区民、就業者の方々へニーズ調査を行うなど、SNS、オンラインを活用  
し、関係人口の創出に向けた取組を執り行えたものと認識しております。

委員長) 他に何かございますか。

委員) 人口動態の関係で分析をされていたらお伺いしたいんですが、5ページですが、社  
会動態という欄がございまして、0~5歳がプラス、通常この年代がプラスになりますと、  
大体30~34歳がプラスになるんですが、ここがマイナスになっているのが普通ではな  
かなか考えられない実態になっているかと思うんですが、何か原因を分析されているんで

したらお聞かせ願いたいのと、それから18～23歳のところは大学卒業されて就職される時期に転出されると思うんですが、それよりももう少し年代の高い24～29歳のところが倍の転出になっている。就職した時よりも数年後の転出が増えているのは何か分析されていたらお伺いしたいです。

事務局) まず社会動態のところ、0～5歳が増えている。一方で30～34歳の親世代のところの転出がみられるところですが、世帯別に見ますと転出される方の中でも複数世帯の方よりも、単身者の転出の数値の方が多くなっており、お子さんをお持ちの世帯ではなく単身世帯の転出がみられると分析をしております。もうひとつ、18～23歳のところが就職の時期ということですが、それよりも24～29歳の方が多いという事は、就職だけでなく就職した後に、転職も含めて更なる就労の場を求めて都市部等へ転出される方が多いのではないかと感じておりますが、具体的な要因までは分析を持ち合わせてございませんので、あくまで推測というところです。

委員) 今の分析ですと子育て世帯は流入しているけれども、単身世帯は流出しているという分析をされているのであれば、もう少し単身世帯への施策みたいなもの、子育てにやさしいまちづくりということで、積極的に取り込まれているとみえて、施策もたくさん用意されていると思うんですが、それでしたらもう少し単身世帯が残られるような施策があるのかなという感じがしました。

委員長) 確かに今のお話を聞いていると、確かに宇治市は単身者にはあまり魅力がないまじのように見えてしまいます。子育て世帯に人気があるという事は、それはそれで施策が充実しているということでもあると思いますが、一番財政的に考えると単身の若い人がたくさんいる方がいいとは思いますが、他には何かございますでしょうか。

委員) 普段子育て支援の方で仕事をさせていただいております。この中にも子育て支援環境充実事業ということで地域子育て支援拠点なども挙げられています。おしなべて今回全部評価の頭には新型コロナウイルス感染の影響によりと軒並み出ていまして、やはりこの戦略は5年を通して見ていくということはあると思いますが、広場なんかも新型コロナウイルス感染症の影響によってなかなか交流を図ることが難しくなったということで、確かに閉めている時期もありましたので交流は難しかったのかなと思います。質問ではなくてこの場を借りて、この間どうしていたかということをお伝えできたらなと思います。広場に関しては緊急事態宣言が出た後は閉めたりもしていましたが、ただ閉めっぱなしだと本当に子育て家庭の方は大変しんどい毎日を送られるということで10か所すべてではないですが、LINE配信を行ったり、Zoomによる相談に取り組んでいます。Zoomも仕事をしていたらみんな当たり前のようにしていますけど、ここ数年ずっと在宅で子育てをしている人にとっては、そのZoomもまた敷居が高いということも分かって、先月

うちの広場ではお母さん向けにZ o o m基本講座をやりました。そういう形で少しずつですけど、この1年で収まりそうにないコロナに対して少しずついろんなところで子育て支援も変わってきているのが現状なので、それをお伝えしたいなと思います。あと、なかなか出生数が増えないというところでも、もちろん元々増えない状況はあるんですけども、コロナの中で不妊治療をされている方は、二人目さんの不妊治療の場合は一人目の子どもを病院に連れて行けないなど、色々な問題があって進まない課題が見えてくることもありました。もちろん費用の面ですとか、コロナが続くのであればこの不妊治療を含め考えていけないといけないと思っています。あと、コロナの1年半は大人にするとほんの少しです。でも今の乳幼児、広場に來ている子どもたちにしたら1歳2歳の子にしたら、ほぼコロナが通常の世界なんです。私にしたら一時の非常時なんですけど、その子どもたちにするとコロナの方が日常というのが当たり前の毎日になっているので、例えば広場の奥でお茶を飲むのに私がマスクを外すと泣くんですよ。それくらいマスクが普通で、こういう世の中になってきてこれからの子育て支援ってどのように向き合っていけばいいのかということも、私は日々関わりながら考えて行っている次第なんですけど、最後何が言いたいかというと、これはある程度、総合戦略というのは形を変えずに5年見て行かないといけないものかもしれないですけど、コロナが簡単に収まらないとなった時に色々なところで内容を変えていく必要があるのかなと思い、ご意見させていただきました。

委員長)現在の取組についてご報告いただきましたが、事務局の方から何かございますか。

事務局)ウィズコロナ社会での地方創生の取り組み、必要に応じて見直していくべきなのではないかというご意見をいただきまして、まさに今コロナまっただ中ですけども、おそらく近いうちにアフターコロナ、ポストコロナの時代がやってくる。こういう時にやはり市政運営をどうしていくのかということは大事だと思っております、まち・ひと・しごと創生総合戦略と合わせて、次期総合計画の策定作業を進めておりまして、そこではしっかりとアフターコロナ、ポストコロナを見据えた市政運営のありようをきちっと書き上げていきたいと思っておりますので、そういう作業の中でこの創生総合戦略に基づく具体的な施策につきましても必要な見直しをしていって、両方の計画がしっかりとマッチするようにしたうえで、市政運営を行っていきたいと思っております。

委員)5ページの人口動態について教えていただきたい点がございます。どちらかという感想なのですが、まず1つは自然動態のグラフを見ていまして、自然動態の数は右肩下がりでずっとどんどん増えていくのだろうと思っていたのが令和元年と令和2年を比べると下げ止まっている。これについてももし見解があれば教えていただきたいのと、このページの下の方に社会動態の年齢層別の数字ですが、既にお話があったように若年層のところでは60歳以上のところはプラスでかなり大きな数字が出ていると、これに関して何か要因的なものがあるのか教えていただきたいです。

事務局) まず、自然動態の出生数の変化については、令和元年から令和2年にかけて若干持ち直しの要因は、あくまで推測の域ではございますが、令和元年という新しい元号を迎えるにあたりまして、いわゆる令和婚というのが話題にのぼりまして、平成31年にかけて婚姻を控えていた方が、時期をみて令和元年に婚姻をしたいという方の社会的に一定みられたことから、婚姻から出生という流れの中で元年から2年にかけては少し持ち直しているのではないかと、これは国でもそういったことが出ておりますので、宇治市でも同じような形をみております。ただ、国や府でも出生数は減少しているのです、これでよしとするわけではなく、引き続き子育てしやすい、出産しやすい環境づくりに努めて参りたいと考えております。もう一点、高齢者が増えている要因ですが、明確な分析や要因にならないかもしれませんが、高齢者アカデミーや鳳凰大学等、高齢者への施策をこの間行って参りまして、高齢者の皆様にとっても住みやすい街ということで、一定増えているのではないかと考えております。

委員) 令和婚のことは頭になかったのですが、もしそうだったとしたら、令和元年度の社会動態の減少が多いというのも、結婚するのを機に出ていく人が多いという可能性はありますか。

事務局) 結婚するとイコール転出するとは限らないと思っております、結婚することで逆にこちらに引っ越して来られるという事もございますので、それが要因かどうかは今持ち合わせていませんが、いずれにしても結婚と就職というのは一つの大きな人生の転機でもございますので、そういったところが住みやすい街、選んでいただけるようなまちななるような取組は引き続きして参りたいと思います。

委員) 初めて参加させていただきますので、単純に教えていただきたいのですが、7ページの地域のブランド調査の所で魅力度全国ランキングが38位と、全国的に上位という説明を頂戴したんですが、そもそも全体で何位まであって、38位がどういう位置づけなのか教えていただきたいと思います。それと、色んな方から人口の減少であったりコロナの話も出たりしました。我々銀行も地域の中にどう協力していくかというのは永遠のテーマであって、宇治支店長になる前任が大阪営業部というところで努めておりまして、上場企業さんなど大きな企業さんを担当させていただきました。パソナさんという人材派遣の大きな会社があるんですが、東京にある本社を淡路島に丸々移して、そこで従業員も丸々淡路島に移住しながら、そこで職、雇用のところとサポートを続けているというお客様も直接対応させていただきましたので、私の中では企業のかなり大きな動きだと認識しております。コロナの中で色々なことがネガティブに作用する反面、また色々なことが無理にでも変わらなければならない、変化していかざるをえない状況になっていますから、雇用するにしても会社の経営者も、これまでの考え方と、リモートワークであったりとかそう

いったことを活かしながら新しい展開を事業経営者の方も模索をされておられると思いますので、次期総合計画の策定に際してそういった大きな変化を、攻めの視点といたら大変ご無礼かと思うんですけれども、やはり従来の延長ではなくて、経営者の考え方を変えていくことを含めてご検討いただけたらと思っておりますので、よろしく願いいたします。

事務局)一つ目の質問の、地域ブランド調査の対象は1000の市町村と47の都道府県を対象に調査をしております、この市町村の中で38位ということですので上位を維持していると評価をしております。分析の対象としても移住の意向ですとか、地域の魅力ですとか、多角的な分析をしての評価と伺っております。前任で大阪におられたということですが大阪市は34位ということで、宇治市といたしましてもどういところが魅力になっているのかをしっかりと調査したうえで、継続的に施策の推進をするとともに、魅力の発信にも力を入れて参りたいと考えております。

委員)教えていただきたい点がありまして、まず21ページなんですが、先日青空レストランというイベントに参加させていただきまして、いのうち農園さんという農家さんが作られた野菜を使って、辰巳屋さんが青空のもとお料理をされるというイベントに参加させていただいて、自分たちが住んでいるすぐ近くに農業を担っている方がいらっしゃるということを意外にご存知ない方が地域にいらっしゃるということを気づくことができました。それでそのページのところで農業に関わる担い手の法人化経営体数というのが基準値6に対して8に増えていて、逆に担い手への農地利用集積率が29.3%に対して27.2という数字が出ていますけれども、ここのところのご説明を聞きたいと思いました。やはり農業を担っている方々がこんなに身近にいらちゃって、地産地消のものを食べられるほど健康に良いことはないと思いますので、農業を担っている皆様の状況をもう少し理解させていただきたいというのが一点と、次のページ22ページで、コロナ禍で1年半も経つ中で本当に苦しい思いをして生業ががんばっておられる方々がたくさんいらっしゃると思うんです。皆さん何とかふんばって頑張っておられるところだと思いますが、コロナ禍でなかなか数字に見えない部分があると思いますが、分かっておられる範囲で宇治の中で生業をがんばっておられる皆さんがどういった状況を課題に持っておられるか、もし分かれば教えていただきたいのと、コロナ禍の苦しい状況の中での新たな創業をしようという人達がいらっしゃるという、22ページの新たな企業拠点の整備に1という数字が入っているのと、創業支援の補助件数も6になっていますし、コロナ禍の中でも行政の皆さんのバックアップもきっとあってだと思っと思うんですが、宇治で新たな生業を創出しようとしているという動きがあるところを、できればもう少し詳しく教えていただきたいと思っております。最後ですが、私は生業と教育が大事だと思うということで、まち・ひと・しごと委員に立候補させていただいたんですが、先ほど委員もおっしゃったように子どもたちにすごく影響が出てきていると思うんですね。教育というのは未来への懸け橋ですし、コロナ

禍の中でも教育現場で色んなご苦労をされていると思うんですが、その中で課題も見えておられる点に分かる範囲で結構ですので教えていただくとありがたいと思いました。

事務局) まず一点目、農業の担い手の法人化経営体数と、担い手への農地利用集積率ですが、担い手の法人経営対数が増えているところは、これは担い手の数ではなく、担い手の中で法人化している数ですので、基準と比べて法人化している件数が増えたので上昇しております。農地の利用集積率ですが、こちらは担い手として認定している方が令和2年度については高齢化により一人辞退されたと聞いておまして、そのため担い手に集積されている農地が減少したという事で数値が下がっている状況です。

二点目、産業交流拠点の整備ですが、企業拠点の整備については交流拠点としてうじらぼを開設しておまして、うじらぼの件数を1と計上させていただいております。うじらぼの中で、地域の中で交流のイベントやSNSの情報発信等を行うことにより、創業したいという思いの方にしっかりと情報発信をできたと評価するなかで、やはりコロナ禍ということもあり、なかなか新たな創業が難しい中で補助金等活用しながら創業したいという思いの方をしっかりと支援していきたいと考えております。

三点目、教育と仕事のところでございますが、宇治市としても非常に大事な部分と考えておまして、今年度の事業ですがこども未来キャンパスという、うじらぼにおいて小学生や高校生を対象に起業の事を学んだり、実際の起業家から児童や学生に対して起業について学んでいく機会を創出する事業に取り組んでおりますので、しっかりと教育と創業がつながるような支援は宇治市としても取り組んで参りたいと考えております。

委員) よく分かったんですが、最後におっしゃった教育とは、ということですが、教育についてどう考えておられるか聞いてもよろしいでしょうか。教育現場で20年ほど働いてきたんですが、全然変わっているなと思っているんです。私が学んできたような教育をしていたら日本はどんどん取り残されていくと思っていますので、是非先進的な教育をしていただきたいと思っておりますので、教育とは、という部分でどのようなお考えを持っておられるのかお聞きしたいですのでよろしくをお願いします。

事務局) 教育に関するご質問ですが、これから2040年問題といわれるように高齢化社会にどんどん突入していく中で、持続的な社会を維持するためには高齢社会をしっかりと支えていく担い手が必要だと思えますし、この担い手を作り、ある意味人づくりですね、このためにはやはり教育は無視できない、非常に大きいものがあると思っております、これからの社会を支えていくためには、こういう人づくりをしっかりと行って、社会を担っていただける人を育てていくことが大事なかなと思えます。コロナの中で教育をしようと思ってもできない部分もありまして、これからの教育にあたっては今国においてGIGAスクール構想が進められておりますが、コロナ禍、ポストコロナの後でも子どもたち全員に等しく教育を受けていただけるような、教育環境を整備していく事が大事かなと思っております。

す。

委員) 力強いお言葉ありがとうございます。昨日たまたまうじらぼで、こども未来キャンパス事業をされている様子を拝見したんですが、先生方も若くてすごくはつらつと教えておられましたし、子どもたちも20名ほど参加している様子を拝見したんですが、自分たちで想像して新しいことにチャレンジしていくPBL型の教育をされていたので、宇治は最先端のことをされていると拝見しました。ありがとうございました。

副委員長) うじらぼで宇治市さんと商工会議所と連携させていただいておりますし、しっかり紹介していただきありがとうございます。21ページで海外販路における取引数ということで、令和2年度に我々も海外渡航を中止したという事で、中止と記載をさせていただいていますが、実は商品だけを送って先方で商談をさせていただいているケースも、アメリカと台湾で行っているということで、企業数は報告では27、品目は130品目と数は少ないんですが、現地には行けないけれども、その辺をご理解賜ればと思います。それから先ほどこども未来キャンパス事業ということでご説明をいただいて、うじらぼの関係はご説明いただいているんですが、多岐に渡って事業を展開されているとは思っていますので、せっかく委員さんがおられますので、ざくっとで結構なのでこども未来キャンパス事業の全容のご説明をしていただければありがたいと思います。

事務局) 一つ目の取引数に関しては中止と書かせていただいておりますが、修正も含めて確認をさせていただきます。二つ目、こども未来キャンパス事業の概要は、産業交流拠点のうじらぼにおいて小学生、中学生を対象とした事業と、高校生を対象とした2種類の事業を用意しております。今年度にかけて地元の方、起業家ですとか、経営者の方をお招きした上で、子どもに向けて、どのように起業をしていくのか、委員からもございましたがPBL型、課題解決型で事業を行っていき、これまでの学校の事業とは違う形、現場での学びをこども未来キャンパスで実施していきたいと考えております。子どもたちが将来宇治で起業をして宇治の産業を支えていく担い手になっていただければと考えております。こういう事業を展開しています。

委員) 先ほどご説明いただいた事業なんですが、子育てしている立場として良い内容だと思えました。ただ、募集定員が結構少ないんじゃないかと思ひまして、チラシが来た段階で申し込んだら締め切っている、キャンセル待ちになるのは、うまくいっていることだと思いますが、応募状況など教えてください。

事務局) 応募状況は、ご応募いただいた方が通年を通して授業を受けるというもので、新たに新規の募集があるかということは今こちらで把握しておりませんが、ご好評いただいているということで、今後この事業の拡大や今後の展開につきましても、産業振興課と連

携しながら取り組みたいと考えております。

委員)今のうじらぼの事業なんです、通常の小中学校、高校の授業で取り入れられないのかと思うんですが、なかなか募集をかけても集まってもらえる人数に限りがあると、もう既にされているのかもしれませんが、京都市のすばる高校はパワーポイントを使って自分たちがどんな事業をおこしていくか発表の場を授業でされていますので、宇治市も事業として取り入れられているものがあれば教えてください。

事務局)こども未来キャンパス事業については、今回は京都府の交付金を活用してモデルエリアとして中宇治地区を先行的なモデルエリアとして実施する事業ですので、今回実施している先ほど委員からご指摘がありました募集定員が少ないのではないかというご指摘も、今後他のエリアに展開していくにあたって事業を見直すなど、定員の部分も含めて発展的に検討して参りたいと考えております。あと、教育の関係では現在は宇治学の取組や、今回のこども未来キャンパス事業で、宇治の子ども達に色んな仕事や就労されている方の体験を聞いていただき宇治の魅力を再確認していただく、愛着醸成に取り組んで参りましたが、その中でどういった事業ができるのかは今後また教育部門と連携しながら考えていきたいと思っております。

委員)ありがとうございます。もう一点、小倉の任天堂さんで展示スペースが出来たりコロナ禍でも映像やアニメは伸びていっていると思うんですが、痛ましい事件がありました。私の地元の木幡でも京都アニメーションさんが頑張っていらっしゃいまして、インバウンドの方が来られている時は海外の方がJR木幡駅に降り立ってくださったんですが、全く休憩スペースも何もなくて、そのまま電車に乗って帰られるという状況でしたので、そのあたり、アニメの担い手でも、今後来て下さる方々をいかにしばらく長い間滞在していただくかということも必要なんじゃないかと思いました。

事務局)宇治の持ち味、強みといいますと長い歴史、伝統、文化になりますが、先ほど委員おっしゃったようにアニメや、小倉駅前の任天堂が新しい博物館になるという最先端の時代に行くような産業を宇治の強みに取り入れていく必要があるのかなと思っております。特に任天堂の歴史博物館については、それを一つの材料とした小倉駅前のまちづくりを進めていきたいという構想もございますし、委員ご指摘のあった新しいコンテンツを宇治の今後の発展に活かしていきたいと思っております。

委員)17ページの②人・物の交流で、コロナ禍の中で京阪沿線の宇治線が10分に1本で走っていたのが15分1本に減便していて、この前バスに乗ったんですがやはりバスも減便で早朝の分と最後の部分が減っている状況です。コロナ禍の中で、そういう部分もあって見直していった方がいいんじゃないかと思えます。

事務局) 委員からご指摘ありました鉄道、バスの公共交通の課題ですが、現在公共交通体系の基本計画の策定に基づき検討している中で、今後は引き続き公共交通の利用促進に向けて課題を捉えながら、課題解決に向けて検討して参りたいと考えております。

委員) うじらぼのこども未来キャンパスなんですけど、それが宇治の全ての小中学校で実現したら素晴らしいと思っているんですけど、あれだけの教育をできる先生がいっぱいいるかなと。講師の先生が本当に素晴らしいなと思ったんです。素晴らしい先生はいっぱいいますけど、社会の一員として楽しく生きる人間を育てたいとおっしゃっていて、そこがすごく明確だったので、これはなかなか学校現場では難しい教育なのかもしれないなと正直思いました。それはやはり先生の力も必要だし、子どもたちの力も必要だし、それが全部の小中学校に広まっていったら、間違いなく宇治の教育水準は上がっていくと感じたので、是非この事業は続けていっていただきたいですし、広げていっていただけたら嬉しいと思いました。それから先ほど任天堂の話が出ましたが、私は実は小倉に住んでいるんです。どんどん小倉の駅前が悲しい状況になるのを見てもう引っ越そうかなと思っていたんですけど、地域の人たちに聞くと二極化しているんです。任天堂が来るしすごいな、世界の任天堂が来るから宇治市はいいな、という人と、渋滞になってしまうから嫌だな、という人と今二極化しているんですけど、もう少し私達にも分かりやすく任天堂の情報が住民にも入ってきたら皆ももっと盛り上がっていくのかなと思っているんですけど、先ほど事務局が言ってくださったように、これが私たちのチャンスだと思っているので是非まちづくり、教育、任天堂をからめた、大きな夢を描いてしまうんですけど、そういった構想をこの機会に是非考えていただいて、小学校が統合するという事も一つの視野に入れて、教育もまちづくりの中に含めていただいて、大きな夢ですが任天堂さんも是非そこに入ってきて、一緒に計画を立てていただけたらありがたいなと願っております。

事務局) 委員お住まいの小倉地域ですね、近鉄小倉駅というのは宇治市内たくさん公共交通の電車が走っているんですけど、大久保に次いで2番目に乗降客の多い地域でして、小倉駅周辺のまちづくりを進めていくことが、宇治市全体の発展につながっていくのかなとっております。ご承知のようにまちづくり構想を鋭意策定しておりますし、その中で未来にふさわしいまちづくりの姿が出てくると思っております。任天堂博物館の構想については今任天堂さんがコンセプトをお考えになっていると思いますので、それはまた任天堂さんからしかるべき時期にアナウンスがあると思います。それを楽しみにして頂ければと思います。いずれにしても宇治市にとっても小倉地域の活性化は宇治市全体の発展にかかせないエリアだと思っておりますので、今後とも引き続きしっかり取り組みを進めて参りたいと考えております。

委員長) 他によろしいでしょうか。私が観光のところで感じたことを、ほとんど感想なん

ですが、言うまでもなく新型コロナの影響で観光関係は目標達成できないのは明らかなのですが、幸か不幸か、観光客が減ったことによって今まで気づかなかった色んなことが分かる。今の任天堂の話もそうなのですが、二極化しているとおっしゃったように、観光客がたくさん来て経済的に活性化することを喜ぶ市民もいる反面、観光客がたくさん来ることと迷惑するとか、来てほしくないという市民も実際にいるわけで、そういうことを考えるときに、インバウンドで非常に外国人観光客を含めて盛り上がってきて、一気に減って、両極端を短い期間で経験できたという事なので、それぞれ市民生活にどういう影響があるのかをしっかりと分析して、ただ人数を増やせばいいのではないということが今回明らかになったと思いますので、そのあたりのバランスをどう取るのか。それから今の話にもあったように、市民に観光客がどっと押し寄せて市民生活に悪影響が出ることがないように、対策をちゃんと取っていますよと情報がしっかり流れるようにするとか、そうことも含めて、ポストコロナの観光政策というものをもう一度練り直す時期なのかなという気がします。これはたまたまうちの学生が調べたのですが、京都市で出ている統計を調べていますと、外国人も含めた観光客数の増加のグラフと、市民意識調査で京都市の観光に満足しているかを、市民に聞いているんですね。この満足度はずっとパラレルで並行して伸びていたんですが、平成27年で人数はどんどん増えていくんですが、市民の満足度が下がり始めるんですね。つまり平成27年の人数くらいまでなら市民は受け入れ可能なんだけど、それ以上増えるといわゆる観光公害、オーバーツーリズムという問題に陥った。ポストコロナは平成27年くらいを目指した観光政策に切り換えるべきだ、というのが学生の結論だったんですが、それはともかく、おそらく宇治市にも似たようなことが起こると思うんです。だから例えば9ページの源氏物語ミュージアムの来館者数が令和2年で46700人ということで、半分くらいに減ってしまっているんですね。これは非常にショッキングな数字ではあるんですが、令和2年の状況でも46000人は来ると。つまりこれはかなりコアな数字としてここは確保できると。ここにどのくらいまで上乘せすれば宇治市にとって意義があるのか、あるいは施設としての目的が達せられて、ということ考えたときに単純に目標の数値が理想と言えるのか、多いに越したことはないというのはそうなのかもしれないけれども、周辺への影響や実際に来た人の満足度といったときに、あまりにも混み合っていたら満足度は低下すると思うんですね。だからそういう意味でミュージアムは特にそうなのですが、ある程度静かな環境で色々味わいたいという人が多いと思いますので、やはりバランスが非常に難しいと思うんですが、それが宇治のブランドにつながると思うんですね。歴史文化を重視しているようなところをブランドとして、人数のバランスが非常に重要という気がします。今日すぐ、この総合戦略でどうこうというわけではないんですが、戦略ということなので、宇治市の観光戦略というのもせっかくのチャンスですので議論していただければいいかなと。これは総合計画の方にも関係しているのかもしれませんが、あくまで感想みたいな話です。特にレスポンスを求めるわけではございません。

事務局) 委員長から観光振興に関わる貴重なご意見を頂戴いたしましたが、まさにウイズ

コロナの中で我々は観光企画数が令和2年は前年に比べて半減している。こういう中でも宇治地域に240万人の方が訪れていただいている状況です。今後ポストコロナを見据えてこれまでの観光、にぎわいを単に取り戻すのではなく、先ほど委員長もおっしゃいましたように、ポストコロナ時代にふさわしく観光客の満足度を上げる、地域の皆様にも幸せを感じていただける、あるいは地域経済がしっかり潤うような、そういうポストコロナ時代にふさわしい観光政策を、宇治ブランドを活かしながら進めていく必要があるのかなと思っております。参考までに私はこの3月まで京都府にいましたが、京都府でもウィズコロナ、ポストコロナ対策を進めていこうという計画を策定されている中で3つのコンセプトがありまして、ポストコロナ時代における京都府政の運営として、一つは京都の本物の強みを活かしていく。あえてコロナだからこそもう一度本物の良いところを皆さんに御理解いただく。これが一つ。それから、絆を再構築していきましょと、コロナ禍の中で冷え込んでいる地域の絆、色んな絆をこの際しっかり強固なものにしていこうと。それと三つ目が新しい日常への対応ということで、ポストコロナを見据えて三つの基本方針に沿って進めていこうということですので、宇治市もある意味この方針と全く同様と思っております、今後とも宇治市の持ち味、強みを活かしながらポストコロナ時代にふさわしい観光政策を進めていきたいと思っております。

委員長)色々貴重なご意見、アドバイスをいただきましたので、今日は基本的に評価報告書に内容についてご報告を承るといのが中心ではございますが、今日出ました各委員のご意見等、今後の政策展開に是非参考にさせていただければと思います。事務局から事務連絡等ございますか。

《事務局から連絡事項の説明》

#### 4. 閉会

《委員長より閉会の挨拶》